

防災の視点を踏まえたインフラ等の安全対策について

防災の視点を踏まえたインフラ等の安全対策の取組状況について、以下の通り報告する。

1 がけ・よう壁に対する安全対策について

(1) 安全対策事業

① 事業概要

近年、台風や集中豪雨等による土砂災害が全国各地で発生しており、区内においても、「改善が望ましい状態(危険度大)」及び「十分な管理が必要な状態(危険度中)」のがけ・よう壁は数多く存在するため、安全対策が必要となっている。

そのため、区は、がけ・よう壁の所有者等に、がけ・よう壁安全対策工事助成及びがけ・よう壁専門家の派遣を行い、がけ・よう壁の安全性向上に努めている。

板橋区がけ・よう壁安全対策工事助成

1. 助成の対象	危険度大と区が判断したがけ又はよう壁
2. 助成の対象者	①がけ及びよう壁の所有者(個人) ②がけ及びよう壁の所有者から同意を得て、助成対象となる工事を行う者(個人・法人) ③公益的な事業を行う法人として認可・認証などを受けている法人
3. 助成金の額	①よう壁の新築及び築造替え工事の場合 工事費用の5割かつ限度額700万円 ②がけ又はよう壁の補強工事の場合 工事費用の5割かつ限度額100万円

板橋区がけ・よう壁改修専門家派遣

1. 派遣の対象	高さ2mを超える既存のがけ・よう壁
2. 派遣の対象者 (右記事項を全て満足)	①区内のがけ又はよう壁について、安全対策工事を検討している所有者 ②法人でない方 ③区市町村税及び軽自動車税を滞納していない方
3. 派遣の実施内容	・現地での目視調査、所有者へのヒアリング ・次の①から③に該当する安全対策工事提案書の作成 ①安全対策工事の施工に対しての課題 ②安全対策工事計画案 ③概算工事費の積算

② 過去5年間の事業実績

年 度	工事助成(単位:か所)		改修専門家派遣 (単位:件)
	新築・築造替え	補 強	
令和6年度	1	0	4
令和5年度	1	0	2
令和4年度	1	0	5
令和3年度	0	0	4
令和2年度	0	0	2

(2) 過去5年間の解消実績

年 度	危険度大	危険度中
令和6年度	3件(残数220件)	5件(残数695件)
令和5年度	2件(残数223件)	6件(残数700件)
令和4年度	3件(残数225件)	4件(残数706件)
令和3年度	5件(残数228件)	5件(残数710件)
令和2年度	4件(残数233件)	6件(残数715件)

(3) 啓発活動

毎年、危険度大・中のがけ・よう壁所有者に管理に関する文書を送付し、がけ・よう壁の適切な維持管理に関する啓発を実施している。

(4) 今後の取組

現在、区が把握している区内のがけ・よう壁のデータは、前回の実態調査から20年近く経過しており、がけ・よう壁の状態が悪化していることが予測されている。

また、がけ・よう壁所有者に管理の啓発や被害等への対応を実施するにあたり、現時点においては、区の対策方針が定まっていないため、行動する拠り所となるものがなく、早急な対応に支障が生じている。

そのため、来年度、再度のがけ・よう壁実態調査を実施し、課題解決に向けて、防災対策方針を策定し、既存事業の見直し及び新たなる取組を実施することにより、がけ・よう壁の安全性向上を図る。

2 路面陥没の未然の防止について

(1) 路面下空洞調査の目的

地中レーダ搭載の路面下空洞探査車等を用いて、区道における路面下の空洞状況を把握し、発見した空洞について陥没の危険度判定を行い、路面陥没の未然防止を図る。

(2) 対象路線等

調査年度、区間延長及び対象路線は以下の通りである。

調査年度	区間延長	対象路線
令和6年度	29 km	緊急輸送道路及び啓かい路線 (15 km) バス路線 (14 km)
令和7年度	80 km	バス路線 (令和6年度実施路線以外) (20 km) 生活道路の一部 (防災拠点までの路線等) (60 km)
令和8年度	5 km	管径2m以上かつ布設から30年以上経過した 下水道管等が埋設された区道のうち、 令和6～7年度に調査していない区間 (5 km)
総調査区間延長	114 km	

(3) 空洞調査方法及び判定

① 一次調査の方法

路面下空洞探査車を使用した、計測及びデータ解析により、空洞の可能性がある場所を探す作業

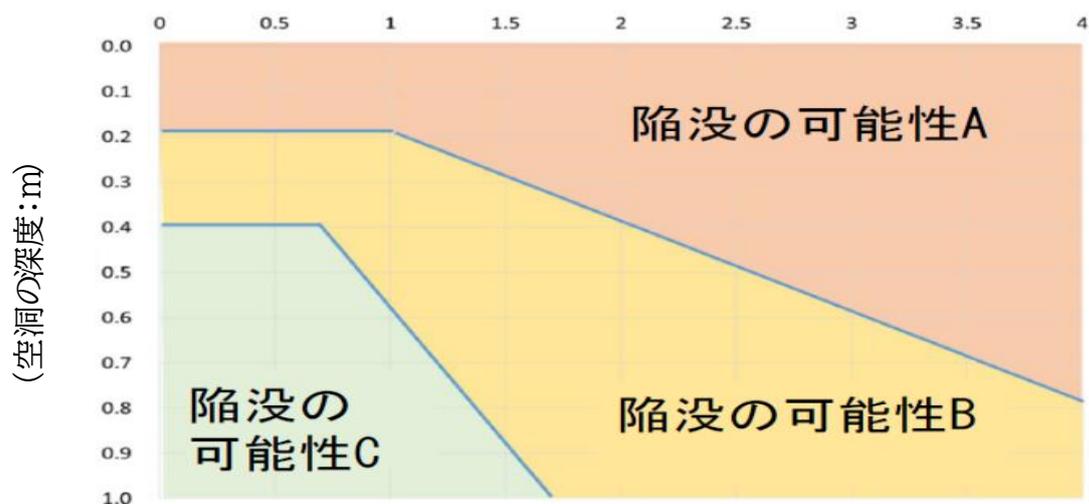
② 二次調査の方法

一次調査により判明した、空洞の可能性がある箇所について手押型地中レーダ調査を行い詳細位置の確認後、掘削した小口径の孔からスコープ調査を行い空洞の有無及び状況等を確認する作業

③ 陥没可能性の判定

国土交通省より通知された「路面下空洞調査要領（令和7年3月）」に記載の陥没の可能性判定表により、「陥没の可能性A：路面陥没発生の可能性が高い」、「陥没の可能性B：路面陥没発生の可能性が中程度」、「路面陥没の可能性C：路面陥没発生の可能性が低い」の3ランクで判定を行う。

陥没の可能性判定表
(空洞短辺の広がり:m)



(4) 調査結果

<令和6年度調査結果>		<令和7年度調査結果>	
一次調査による空洞の可能性がある場所 145か所		一次調査による空洞の可能性がある場所 176か所	
二次調査による陥没の可能性判定結果		二次調査により現在判定中	
陥没の可能性A	30か所		
陥没の可能性B	39か所		
陥没の可能性C	58か所		
異常なし	18か所		
合計	145か所		

(5) 今後の対応について

陥没の可能性があるAの箇所については、関連部署と緊密に連携し、緊急度の高い順に迅速に対応をしている。一方、陥没の可能性があるBとCの箇所に関しては、関係部署と調整しながら、順次対応を実施していく。